

# RKU Today

流通経済大学広報誌

SPRING 2012

【特集】  
祭魚洞文庫に伝わる  
百人一首の世界



流通経済大学

vol.19

04	【特集】	文: 和田律子(法学部教授) / 撮影: 齋藤 明(総務課)
		さいぎょどう 祭魚洞文庫に伝わる 百人一首の世界
08	【学長室だより】	小池田富男(流通経済大学長)
		「フンボルト理念」と大学の使命
10	【連載】英語のなかに歴史を読む 第2回	石田 謙(経済学部教授)
		中世ロンドンの暮らしを伝える言葉 part1
12	Close Up!	流通経済大学
		[教職員紹介]
14	【馬場啓一のRKUウォッチング】	文: 馬場啓一(法学部教授) / 撮影: 沖野雅広(企画広報室)
		「留学生はまず日本語をきちんと 学ぶことが大切です」朱 思琳 准教授
16	【OB/OG 訪問】立川が聞く。	取材: 立川和美(社会学部准教授)
		ダニエル・ジェンガさん (1999年3月卒業・株式会社ヤクルト本社 陸上競技部)
18	【留学生紹介】	取材: 沖野雅広(企画広報室)
		セレーテル・ジャルガルさん(モンゴル出身) 「自分の足で立って、目で見えて勉強していきたい」
19		
20		流通経済大学図書館・出版会からのお知らせ
22		祝 関東大学ラグビーリーグ優勝 ラグビー部激励会
		NEWS & TOPICS 2011年度卒業式・〇〇会 / ヨーロッパツアー / 卒業論文発表会 交換留学生終了式 / スポーツ方法実習(スキー・スノーボード) 業界・企業説明会



言葉の持つ重要性、  
これをもっと認識するべきではないか。  
すなわち日本語を大切にすること。  
コミュニケーションのツールとして  
学生諸君には、日本語に、  
より一層磨きを掛けてもらいたい。  
日本語を大切にし、正しい日本語を使う。  
読み書き算盤といわれた昔から、  
読むこと、書くことは、  
つとに重要な案件とされてきた。  
必須事項なのだ。  
日本語の読み書きの研鑽こそ、  
日本人学生と留学生とを問わず、  
大学生としての徳目の最たるものである。  
震災以来「絆」という言葉が  
人々の口の端に登るようになった。  
この「絆」を、深く強固なものにするのも、  
その芯になるのは言葉だ。すなわち日本語。  
言葉の重要性を認識せよと説くのは  
このためである。

# 祭魚洞文庫に伝わる

# 百人一首の世界

百人一首とは、百人の歌を一首ずつあつめた作品のことです。藤原定家が撰んだ、一般的に「小倉百人一首」と称されるものが有名です。お正月などに遊ぶ「かるた」も、ふううはこの「小倉百人一首」を指します。その『百人一首』の版本（板に彫った原版を紙に刷りだして作った本）が本学に所蔵されています。これまで未紹介でしたが、このたび調査をおこなった結果、たいへん珍しい資料であることが次第にわかってきました。また調査は続行中ですが、内容の一端をご報告をかねてお話ししたいと思います。

文：和田律子（法学部教授） 撮影：齋藤明（総務課）

かるたは読み札と取り札にわかれています。一般的には読み札には絵が描かれています。いわゆる（坊主めくり）をして遊んだという経験をお持ちの方もおりかと思えます。このように百人一首は歌と絵がセットになっているのが普通なのです。

ところが、本学所蔵の『百人一首』には、和歌が書かれています。歌人の姿だけが刷られているのです。江戸時代には『手習百人一首』(注)といつて、百人の人の姿だけが刷られ、歌は自分で書きなさいという趣向のものもあつたようです。本学所蔵の『百人一首』もその趣向



『百人一首』全（流通経済大学所蔵祭魚洞文庫本）

流通経済大学図書館特別文庫「祭魚洞文庫」とは、浪沢栄一の孫で日本銀行総裁、大蔵大臣等を歴任し、日本の経済界を代表する人物のひとりである浪沢敬三（1896～1963）旧蔵の文庫です。浪沢敬三は文化事業にも強い関心を持ち、とくに、民俗学の発展の功労者といわれています。浪沢敬三は、その書齋を「祭魚洞書屋」と命名し、主として民俗学や常民文化に関する書物資料の収集を続けました。同文庫は、後年日本通運株式会社に譲られ、さらに、同社から本学に寄付されました。2万点を超える膨大で貴重な資料を有しています。



流通経済大学図書館（龍ヶ崎キャンパス）と祭魚洞文庫の蔵書

に近いのですが、「小倉百人一首」での趣向をもつものは、管見に入った範囲ではみつからず、きわめて珍しい資料といえます。

上段の表紙写真を御覧ください。江戸時代中ごろの版本で、サイズは本誌とほぼ同じです。大本といえます。当時は紙が貴重だったこともあり、本が大きいことは贅沢な本であることを意味しました。薄茶色紙表紙で、全体に二重格子に梅の枝が雲母刷りで配され、中央に「百人一首 全 鳥井清長画」と題箋が付されています。本を開くと、一頁に一人ずつ百人一首作者の姿が刷られています。絵は

秋の田の かりほの庵の 苔を荒み  
わが衣手は 露に濡れつつ



春過ぎて 夏来にけらし 白妙の  
衣干すてふ 天の香具山

「小倉百人一首」は、ふたりの天皇の歌からはじまります。

天智・持統という父娘の天皇です。天智天皇からみていきましょう。天智天皇像は、縹緗縁と称される高貴な方が座る縹緗様の描かれた畳に、垂縷束帯姿ですわり、御簾が胸のあたりまで巻き上げられている図様です。御簾をとおして顔もはっきり見えます。定型の姿絵には御簾はなく、これは本資料特有の意匠といえます。

次に、持統天皇をご覧ください。垂髪唐衣姿です。天智天皇とおなじく縹緗縁の畳にすわっていますが、高貴な女性の象徴として几帳という衝立ふうのものが配されています。御簾が胸のあたりまで巻き上げられ、御簾越しの顔がはっきりみえています。持統天皇と同じです。持統天皇像は、現代にいたるまで図様の変容が大きいことで有名なのですが、本学資料のような図様は管見に入った限り見られず、定型から逸脱した特異な姿絵ということができそうです。

つまり、天智・持統の両天皇の図様は、他の資料にはほとんど例のない、珍しい図様であるといえます。

人物のみで、衣裳の文様・御簾や畳の縁などが丁寧に描写されています。また、女性の十二単や裳の描写も詳細です。すべて淡彩に色づけされています。大本であること、表紙の雲母刷の状態が良好であること、本紙の姿絵は着色されて、衣裳の文様などがきわめて丹念詳細に表現されていること、これらを総合しますと、良質の版本であると考えられます。持ち主に大切にされていたのでしょう。

「百人一首」の絵姿には、伝統的に定型といわれる型があり、おおきく三種類に分類されています。現存する多くの百人一首絵もほとんどがその三種類のいずれかの影響を受けたものといわれています。それでは、本学の資料はどのようなものなのでしょうか。調べたところ、いわゆる定型を踏んだものもありますが、一方で、定型からはずれた独自の型を持つ絵もあるようです。いくつかの例をとりあげて、特徴をながめていくことにしましょう。

なお、先にも述べましたように、本学資料には歌が書かれていませんが、ご参考までに、百人一首の歌も合わせて載せておきます。

和歌の引用は、井上宗雄氏『百人一首を楽しくよむ』（笠間書院、二〇〇三年）に拠ります。

(注) 中野三敏氏『本道楽』（講談社、2003年）に拠りました。本資料は国文学研究資料館教授寺島恒世先生にご教示いただきました。記して深謝申し上げます。

## 【柿本人麿】

人麿の姿絵には、伝統的に特有の定型の図様が継承されてきました。それは、葵烏帽子あおいぼしといわれる帽子をかぶった直衣姿ちしきがたで、左向きで右ひざを立て、右手に筆左手に紙を持つという姿です。本学資料の人麿も、筆や紙は持つてはいませんが、全体の図様はほぼ定型が踏襲されているといえます。百人一首絵の伝統的図様の継承が本学資料にも認められる例のひとつです。

## 【清少納言】

百人一首絵の清少納言は、一般的に見返り美人姿または横向きに描かれることが多いようです。これは清少納言があまり美しくなかったためだともいわれていますが、いかがでしょうか。真偽の程は不明です。ちなみに、ご家庭などでよく使われている「任天堂かるた」は見返り美人姿です。

さて、下の写真をご覧ください。

本学資料の清少納言像は、やや左向きながらも正面を向いた座像です。裳唐衣姿もろからぬぎで右手に松扇まつあふぎを開いて持ち、顔の下半分を隠しています。けれども、目鼻の部分ははっきりみえています。このような、顔をみせる正面姿の清少納言像は珍しく、伝統的図様から逸脱したものの

歌は、当時としてはあたらしい感覚のものでした。

その定頼が、ひとりの宮廷女房をからかったという逸話があります。相手は小式部内侍こしきぶないしといい、有名な女流歌人なによ和泉式部の娘でした。

小式部内侍があるとき都の歌合うたあひに歌人として選ばれました。母和泉式部はあいにく遠い丹後の国にいました。定頼は、「歌はできましたか。お母様に代作していただくために丹後にお使いを出しましたか。まだお使いは帰ってこないのでしょうか。ご心配なことですな」と小式部内侍をからかいました。小式部内侍は帰らせた定頼の袖をとらえて、

大江山 生野の道の 遠ければ

まだふみもみず 天の橋立

(丹後は遠いのでまだ天の橋立も見たことはありませんし、母からの手紙も見てはおりません)

と歌を詠みました。「百人一首」に選ばれた歌です。

小式部内侍の姿絵をご覧ください。正装をして正面を向いています。この図様は定型そのままに描かれています。本学資料が定型も取り入れていることを示す例のひとつです。

この小式部内侍は、魅力的な女性だったようで、時の大臣にも愛されました。大臣が病気になるたとき、逢いたいと小式部内侍に歌を送りました。しかし、正妻では

あしびきの 山鳥の尾の しだり尾の  
長々し夜を ひとりかも寝む



夜をこめて 鳥の空音は はかるとも  
よに逢坂の 関はゆるさじ



朝ぼらけ 宇治の川霧 たえたえに  
あらはれわたる 瀬々の網代本



大江山 生野の道の 遠ければ  
まだふみもみず 天の橋立



といえましょう。

このように、本学資料の図様をみてまいりますと、人麿のように伝統的図様を継承しているものもありますが、他の三点のように異なる図様を有するものもありました。いまは数例のご紹介に留めますが、他資料とは異なる特有の、あるいは独自の図様も他にも多くみられ、きわめて興味深い資料ということができると思います。

\*\*\*

最後に、百人一首の歌人にもつわるエピソードをひとつ、姿絵とともにご紹介いたします。

## 【藤原定頼】と【小式部内侍】

姿絵を見ますと、定頼は、衣冠束帯いかんくわんたうという当時の貴族の正装姿で「後ろ向き」にすわっています。じつは、定頼の図様の定型は前向きで、「後ろ向き」というこの図様はたいへんめずらしいものです。清少納言図様とおなじく本学資料の特異性が示される例のひとつといえましょう。

ところで、藤原定頼は、当時の歌の名手の一人でした。「百人一首」には

朝ぼらけ 宇治の川霧 たえたえに

あらはれわたる 瀬々の網代本

が撰ばれています。冬の早朝の宇治川の風景をすつきりと謳いあげています。しかも、「宇治」といえば『源氏物語』宇治十帖の舞台です。物語世界も視野に入れた清新な和

ない小式部内侍は逢いにいくことも叶わず、歌を返しました。

死ぬばかり 嘆きにこそは

嘆きしか 生きて問ふべき

身にしあらねば

(死ぬほどお逢いしたいと思っております。でも、生きておそばに行ける立場ではございませんので) づらく悲しい心が詠われています。

(参考) 久下裕利氏「小式部内侍をめぐる男たち」『学苑』第八五五号 二〇二二)

\*\*\*

本学資料「百人一首」をご紹介します。まいりました。

お手持ちの百人一首かるたの図様はいかがでしょうか。ご関心をお持ちの方は本学資料と比べてご覧になってください。かるたの楽しみが広がるかもしれません。『百人一首』の、とくに「絵」については、まだまだ知られていないことも多く、研究途上にあります。本学資料も百人一首絵の研究に多少なりとも寄与することができましたら嬉しく思います。

補記・本学資料の詳細については、『流経法学』第二一号(二〇二二)の和田律子「資料紹介 流通経済大学蔵祭魚洞文庫『百人一首』」において報告しました。

〔学長室だより〕

# 「フンボルト理念」

## と大学の使命

学長 小池田富男



vol. 12

Tomio Koikeda  
Gakuchoshitsu Dayori

かつて経験したことのない巨大地震と大津波によって多くの尊い人命や財産、そして人々の生活までも奪った昨年三月十一日の東日本大震災と、それに起因して発生した福島原子力発電所の深刻な爆発、放射能漏れ事故から、早いものでもう一年が過ぎた。いまだに多くの方々が、住み慣れた地を離れて不自由な避難生活を余儀なくされているとはいえ、被災地で復旧に向けた槌音が大きく響き始めていることは、何よりも被災された人々の不屈の忍耐力と、この国の強靱さを示すものであろう。

しかし、福島原子力発電所周辺の放射能汚染地域に関する限り、技術的にも除染は困難を極めることが予想され、所によっては故郷にいつ帰還できるかの目途さえ立たない状況にある。また福島から関東にかけての首都圏の一部でも、これからの長期にわたり、自然界のレベルを超える比較的の高い放射線量の中での生活を強いられることにもなった。更に今回の事故を受け、原子力発電所の再稼働の是非をめぐって、我が国の将来にわたるエネルギー政策についての難しい選択を迫られるなど、前途

は多難と言つてよい。

その意味で3・11は、明治維新や太平洋戦争での敗戦と並ぶ程に、将来のこの国の有り様を大きく変える、歴史の転換点の一つと位置づけられよう。そしてこういう時代だからこそ、大学の果たすべき役割も大きい。しかしながら、震災および原発事故へのあまりにも稚拙な初期対応によって、政府や政治そして政治家への信頼が地に落ちたのと同じように、これまで無批判に政府や産業界と一体となつて国の原子力政策に協力してきただけでなく、危機的状況では沈黙してしまい、住民の安全のために何らの有効な提言もできなかったことで、原子力工学のみならず科学技術や科学者、そして大学そのものへの信頼さえも大きく損なわれてしまったことは否定できない。

しかし大学は、もともと「学府」として「学問の自由」と固有の「自治」を保証され、政治や世間から一定の距離を置くことを認められた特別な存在である。時の政権の思惑や目先の事象に捉われず、「国民の利益」と長期的な視野に立つて、将来の人材育成や科学技術の発展、そして社会の進むべき方向

ていかなければならない。そしてそれは、大学の学術研究に支えられることを必要としている。

一九世紀初頭のナポレオン戦争によって荒廃し、フランス占領下におかれた現在のドイツにおいて、祖国の「精神的権威の復興」を目的として創設されたのが、近代大学の祖、ベルリン大学である。創設者の一人、ヴィルヘルム・フォン・フンボルトは、現在の日本と同じく悲惨な状況にあった祖国プロイセンの復興のためには、何よりも教育と研究の振興によって民族の「精神的権威の復興」が不可欠であるとした。以来ベルリン大学は、ドイツにおける「民族精神」と文化の中心となり、政府からも超越した特別の存在であることを

社会から認められてきたのである。

こうして近代の大学は、「危機の時代」において国家の復興と民族の救済を目的に、健全なナショナルリズムと結びついて生まれてきたことを忘れてはならない。政治がいかに停滞と混乱の中にあり、政治家や官僚が有効に機能しない時でも、大学と大学人は社会と国民に対し、凛として将来の方向性を示す啓蒙の役割を果たさなければならず、これこそ大学の「公共的使命」である。したがって本学の教育理念である「実学主義」も、安易な社会への迎合であってはならず、「国家百年の計」に立った教育や研究として行われなければならない。

を示すことを託されているのである。それゆえ大学における学術研究は、人間と社会にとって有益でなければならないにしても、都合主義の「御用学問」であってはならず、学問それ自体が「自己目的」として行われることにポジティブな意味があった。その意味で、今回の事故によって科学技術や大学への信頼が揺らいだのも当然であり、大学人は謙虚に反省しなければならない。

その際、一八一〇年のベルリン大学の設立以降、近代の大学に大きな影響を及ぼしてきた「フンボルト理念」を、あらためて再評価すべきではないかと思う。社会の日常や政治の喧騒に惑わされることなく、大学で自由に創造性豊かな研究と教育が行われていなければ、真の意味での「社会の進歩」もありえない。自由な環境での研究と教育の「多様性」だけが、学術の継承発展と「社会の進歩」を担保するからである。また今日のグローバル時代にあつて、我が国が世界をリードしていくためには、経済的な復興だけでなく、我が国固有の文化や伝統(ソフト・パワー)を世界に向かって積極的に発信し



ヴィルヘルム・フォン・フンボルト  
(Karl Wilhelm von Humboldt)

一七六七〜一八三五  
プロシヤの貴族出身の言語学者で、また政治家でもあり、ベルリン大学の創設者の一人となった。彼の名を冠した「フンボルト理念」は、これまで「大学の自治」と「研究至上主義」を意味する近代大学の理念(権利)として、大学人には都合よく解釈されてきたが、しかしそれは、大学の自由な研究とそれに基づく教育こそが、政治や社会から超越して、時代の牽引車になるべきこと(責任)を説いたものであった。



### 〔学長の活動〕 2012年1月～3月

- 1月
- 10日 学部長連絡会議
- 14～15日 大学入試センター試験
- 17日 私立大学連盟平成23年度学長会議(第2回全体会議)
- 24日 教員免許状更新講習担当者会議  
全学入試協議会
- 29 ラグビー部激励会(リーグ優勝祝賀会)
- 31日 大学協議会

- 2月
- 3日 全学入試協議会
- 7日 海外提携校留学生修了式  
全学入試協議会
- 8日 松戸市との防災協定締結式
- 16日 筑波銀行木村頭取来訪
- 17日 全学入試協議会
- 25日 流通経済大学教職課程卒業生の集い
- 28日 全学入試協議会  
流通情報学部山岸教授退職記念講演会

- 3月
- 1日 付属柏高等学校卒業式  
龍ヶ崎市龍流連携懇談会
- 8日 経済学部鎌田・田多教授退職記念講演会  
全学入試協議会  
経済学部親和会送別会
- 13日 大学協議会  
大学院委員会  
社会学部末広会送別会
- 20日 平成23年度卒業式
- 21日～24日 北京物質学院学術交流協定締結式  
首都経済貿易大学表敬訪問

ウィリアム・ラングランドの作といわれる夢物語『農夫ピアズ』のなかには、中世ロンドンの居酒屋の情景を描いた箇所がある。ここでは、靴直し女に鑄掛屋に売春婦、街路清掃夫や溝堀人夫や鼠捕り男、さらにはヴァイオリン弾きや古道具屋や皿売り女など、歴史の教科書では滅多にお目にかかることのできない社会の底辺に生きる人々が笑い声をたて唄を歌いながら楽しそうに一杯やっている姿が描かれているが、その居酒屋には、図1のようにツタの枝 (vine) を先に絡ませた長い棒がにゅつと突き出ているに違いない。

ツタは酒神バカスの象徴であり、中世では何よりもまず居酒屋の目印であって、店先にこの長い棒 (看板棒) を突き出し客寄せをするのが当時の居酒屋の慣わしであったからである。そして、この風習から Good wine needs no bush. (良いワインはそれ自体が宣伝になるので広告を必要としない) という意味の諺になった。この諺の背後には、中世の居酒屋の風習が潜んでいるのである。

居酒屋では大量のビール (当時はエールと呼ばれた) とワインが飲まれていたが、そこは賭博の温床でもあったから、居酒屋に誘われていかさま賭博に手を出し、金品を巻き上げられる人々も少なくなかった。サイコロを使ったゲームでの賭事が広くおこなわれたのにバックギャモンという名称で広まった

歩行者の災難は街路に面した建物の二階の窓から文字通り降りかかってきた。図3は、その様子を現代の挿絵画家が若者向けの歴史書に描いたものだが、投げ捨てられているのは糞尿で、壺のような容器は室内用便器 (おまる) である。当時は室内にこの便器をおいて用を足し (図4)、汚物は階下におろして道路の中央を走る溝に捨てるよう定められていたが、二階の窓から道路に向かつて投げ捨てる無精者が多かったから、そんな時にたまたま通りあわせた行人こそいい迷惑であった。

そこで人々は自衛のために建物の外壁 (wall) のすぐ脇を歩くようになり、そこから give ~ the wall (〜に壁際を譲る) という言い回しが生じて「人に有利な立場を譲る」という意味で用いられるようになった。中世の建物は二階が一階より突き出た構造になっており (図3、図5)、当時の人々にとっては、真上が二階の床下にあたる外壁に沿ったところこそ空から降ってくる糞尿を避けるための安全な通り道であったからである。

中世ロンドンの街路には、投げ捨てられた糞尿以外にも肉屋や魚屋がところ構わず捨ておいた動物の内臓など、ありとあらゆる不潔なごみがあふれていたから、靴が汚れるのを避けるためにパタン (patten) という

ものや (図2-1)、チェック模様の遊戯盤 (図2-2) を使ったゲームが盛んにおこなわれており、ここから現在でもよく使われる fun the tables (テーブルを回す) という表現が生まれた。この場合のテーブルは食卓ではなく、ゲームで使われる木製の遊戯盤を指しており、遊戯盤を一回転させると劣勢の者が優勢へと一変することから「形勢を逆転する」とか「さかねじを食らわせる」という意味で使われるようになったのである。

では、この遊戯盤 (テーブル) が tables と複数形になるのはなぜなのだろうか。実は、図2-1でははつきり見て取れないが、バックギャモンの遊戯盤は中央で折り曲げてたためるようになっていて (図2-3)、その半分を table といふ全体で tables となるのである。また他の遊戯盤も表と裏に別の模様を描かれ、引っくり返せば異なるゲームを楽しめるようになっていたから、表裏それぞれの table が二つで tables となり、いずれにせよ中世の遊戯盤は tables と複数形で表現された。小さなことだが、こんなところにも当時の遊戯盤の形状が反映しているのである。

ところで、冒頭で取り上げた居酒屋の看板棒をめぐって住民の間から、「あちこちの居酒屋があまりに長い看板棒を突き出しているため通行の妨げになるうえに、棒の重さで建物も傷んでしまう」との苦情が生じたことがあった (一三七八年)。そのため、このとき以降ロンドンでは看板棒の長さが七

う履物が考えだされた。これは木製の下駄のような履物で、この上に靴を履いた足を乗せて泥道を歩き (図6)、室内に入るときに汚れたパタンだけを脱いだのである。

ロンドンにかぎらず中世ヨーロッパの都市は、糞尿や多量のごみの投棄による不潔きわまりない状態にあり、その状況はヨーロッパで下水道が整備される一九世紀にいたるまで数百年にわたって延々とつづいた。

イギリスの画家ホガースは、一八世紀中頃のロンドンで依然として窓から糞尿が投げ捨てられている光景を描いているが (図7)、フランスの小説家ル・サージュも『ジル・ブラース物語』 (一七二五年) の中で、主人公の青年が闇夜の往来で頭から糞尿を浴びせられた様子を描いている。ちなみに現代のハイヒールは、汚物にまみれた道でドレスの裾を汚さないよう使われ始めたフランスの踵の高い靴がもたになっている。

フランスでは、糞尿を窓から投げ捨てる際「水にご用心 (Care de l'eau)」と叫ぶ風習があったが、このフランス語がスコットランドのエディンバラで訛って使われ、「ガーディール (Gardy loo)」という英語に転化した。ちなみに、トイレを示す英語の一つに loo があり、その由来をめぐる有力な説として、この Gardy loo の loo が挙げられている。

こうして、糞尿をめぐると古い風習もまた、英語のなかに今なおその痕跡をとどめているのである。

## [連載] 英語のなかに歴史を読む (全4回)

Yuzuru Ishida 石田 譲 (経済学部教授)

何気ない英語の単語やフレーズのなかに秘められた昔の人々の思いがけない暮らしのありようを読み解いてみよう。

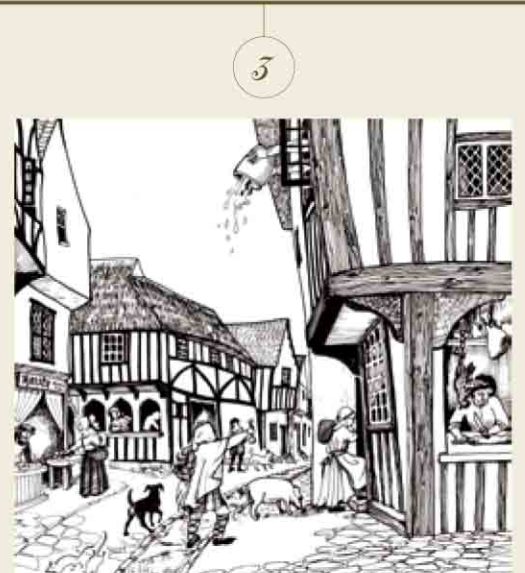
### — 第2回 — 中世ロンドンの暮らしを伝える言葉 part 1



居酒屋の看板棒 (14世紀前半)  
Peter Clark, *The English Alehouse: a social history 1200-1830* (1983), between pp.176-177



中世の遊戯盤  
1 バックギャモンにつながる遊戯盤  
Geoffrey Hindley, *The Medieval Establishment 1200-1500* (1970), p.56  
2 チェック模様の遊戯盤  
Geoffrey Hindley, *The Medieval Establishment 1200-1500* (1970), p.57  
3 バックギャモンの遊戯盤  
Felix Barker and Peter Jackson, *The Pleasures of London* (2008), p.18



2階の窓から投げ捨てられる糞尿 (想像図)  
Chris Jordan and Tim Wood, *England in the Middle Ages* (1984), p.11



中世の室内用便器 (おまる)  
ここではベッドの脚もとにむき出しの状態で置かれているが、やがてベッドの下や家具の中に隠しておくようになる。  
Lawrence Wright, *Clean and Decent: The Fascinating History of the Bathroom & the Water Closet* (1960), p.121



ロンドンの家並み  
エドワード6世の戴冠式の行進 (1547年) を描いた絵の一部分。2階が1階より突き出ているのが見て取れる。  
Nicholas Whines, *A Child's History of London* (1984), p.15



13世紀のパタンとパタンを履いたイメージ図  
このパタンは出土品のため腐食した部分が欠けている。靴を履いた足をパタンに乗せて革のバンドで固定して歩く。  
Nicholas Whines, *A Child's History of London* (1984), p.92  
(上) Francis Grew and Margrethe de Neergaard, *Shoes and Pattens* (1988), p.92  
(下) R.Turner Wilcox, *The Made in Footwear* (repr. 2008, 1st ed. 1948), p.75



18世紀の糞尿の投げ捨て (ホガースの銅版画 1738年)  
Sean Shesgreen ed., *Engravings by Hogarth* (1973), Plate 45



[教務課]  
永井要子 係長

### 資格取得の難しさ

龍ヶ崎キャンパスの教務課で、主に教職課程の事務を担当している。

毎年、新入生の1割以上が教員志望で教職課程の科目を履修する。教職は資格科目であるため、卒業単位以上に教職単位を修得しなければならず、かなりの努力を要するため、教職に就きたいという強い意志がない者は途中で挫折してしまい、そういう学生も決して少なくない。

今年もまた、教員免許を取得した学生を送り出す季節がやってきた。入学した頃に履修の相談にやってきた彼らは、果たして生徒の前で授業ができるであろうかと疑問が残る舞いであった。しかし、4年生の教育実習前には、教育指導案作成や教材研究をこなす教員のタマゴへと成長してくる。実習後、夜中まで翌日の教材準備をやっていたと報告する彼らの目からは達成感がうかがえる。

彼らは教員免許状取得がゴールでなく、卒業後に教職に就くことが目標だ。サクラ咲く頃に教壇に立つ彼らを想像しながら、今日も事務を執っている。



[スポーツ健康科学部]  
大槻 毅 准教授

### 世界で活躍する先生

京都府綾部市出身の先生は、筑波大学大学院博士課程体育科学研究科(博士(体育科学))を修了された後、2010年に本学に着任された。スポーツ生理学がご専門である。最近では、運動中の血圧上昇を予測するプログラムを開発し、これを日常使用している血圧計にどのように組み込めるかを研究されている。先生が発表してきた研究論文は、国内のみならず、海外の研究者からも高く評価されており、世界各地から問い合わせが絶えないとのこと。まさに、世界で活躍されている研究者の一人である。先生の研究の成果が、世の中に広く普及する日も近い将来訪れるであろう。

常に笑顔で、話し方がとても丁寧な先生の「スポーツ生理学」の授業は、とても白熱した授業になり、学生からの人気の高い授業の一つである。

今では、沖縄県渡嘉敷で実施している海浜実習中での、日焼け防止対策として、一寸も紫外線の入る余地を持たせない格好は、もはやスポーツ健康科学部の伝説となっている。

(田畑 亨・記)



[法学部]  
石田修大 教授

### 学生の関心領域を広げる

メディア論、現代文章論を担当して5年目になる。新聞とラジオの時代に生まれた世代にとって、歩きながらスマートフォンを操る学生諸君は異星人である。文章も同じで、原稿用紙の升目を万年筆で埋め、書き損じては丸めていた身には、器械任せで文字を打ち込むメール、ツイッター世代の文章は、あつげにとられること多々だ。

メディアの利用法、文章の書き方をどう伝えるか、未だに試行錯誤だが、メディア論も文章論も、要は学生の関心領域を広げ、知ること、考えること、自分の意見を持つことの手助けだと思っている。大学紛争から爆弾事件、飛行機事故、北洋漁業、南米移民、映画や落語、音楽祭等々、さまざまな現場を見てきた新聞記者の目から見ると、これほどメディアが発達しているのに、学生諸君は世間に無関心すぎる。

新聞やテレビ、書籍を通じて世界を知り、文章を書くことで自分なりに考えてみる。それを続ければ、思いもよらなかった世界が広がり、新しい目標や意欲も生まれると思うのだが、さて、いかがなものか？



[流通情報学部]  
矢野裕児 教授

### ロジスティクスの面白さを伝える

ロジスティクスという耳慣れない言葉がつく「ロジスティクスシステム論」「ロジスティクス実践講座」「ロジスティクス企業訪問講座」を担当しています。企業が顧客の需要に対して商品をいかに届けるか、その最適な姿をデザインしようとするものです。顧客の細かな需要に対応することは、商品の付加価値を高めていくことにもつながります。

ロジスティクスの考え方は、企業の経営戦略において重要な柱となっていますが、学生には理解しにくいという側面があります。そこで、実際の企業事例を含めて、学生に面白さを伝えようと、実践講座では約25名の企業講師(花王、ハウス食品、味の素、ニチレイ、国分、三菱食品、日通等)による講義、企業訪問講座では11箇所の現場訪問を実施しています。

さらに、東日本大震災では、ロジスティクスの重要性が、再認識されました。従来の効率性重視の考え方だけでなく、リスク対応の観点も必要ということから、「災害ロジスティクス論」を2011年度秋学期から開講しました。



[社会学部]  
高橋伸子 講師

### キャリアデザイン

私は「キャリアデザイン」「キャリアマネジメント」の授業を担当しています。「キャリア」は職業経歴としての意味で使われることが多く、高級官僚のことを「キャリア組」と呼ぶことから、何か特別な経歴を持つ人というイメージを抱く学生もいます。しかし、キャリアは職業だけではなく、職業をふくむ人生そのものを意味しますので、人間の数だけキャリアはあるのです。

私が社会に出た頃は、一生懸命勉強して(いわゆる)良い学校・良い会社に入れば定年まで安泰という時代でした。言いかえれば、会社に入ってしまったらその後のキャリアは会社が用意してくれていたのです。乗り物に例えると、会社という電車に乗れば定年まで運んでくれました。しかし、時代は大きく変わり、自らが車を運転する時代になったのです。そのような時代を生きて抜くために、大学時代にどうすれば良いのでしょうか。その答えは一人ひとり違います。授業では、主体的に自らの「キャリア」を形成するために必要な知識や方法・考え方を学び、「働くということ」について深く考えます。



[経済学部]  
朝倉啓一郎 准教授

### 仕事も生活もフットワークよく

「九州から上京したばかりなので、こちらの生活にまだまだ慣れていない……」と思っていたのですが、上京したのがアトランタオリンピックの開催年でしたので、かれこれ16年が経過しています。はやいものです。趣味は、高校まで宇佐神宮のそばで育ったこともあり、日本史です。そして、神社仏閣巡りが大好きです。

授業では、統計学概論を担当しています。私たちの身の回りでは、多数の調査が行われ、いろいろな統計が報告されています。そして、統計は、政府の経済政策や経済・社会状況にかんする議論のベースとして広く利用されています。したがって、授業では、統計に慣れ親しみつつ、とにかく電卓を叩きながら、具体的に統計データを整理し、楽しく統計を利用できるようになることを目標にしています。

日常生活では、一時期、100キロ近くまであった体重が、やっと60キロ台に戻って来ました。ずいぶん体も軽くなった気がします。仕事も生活も、フットワークよくこなしていきたいと思っています。

# 馬場啓一の RKU ウォッチング

撮影：沖野雅広（企画広報室）

RKU Watching



朱先生の研究室にて

## ●朱 思琳/シユ・シリ

中国上海生まれ、横浜国立大学大学院博士課程後期修了、学術博士。専攻は財政学、地方財政論である。研究テーマは市場経済化に伴う中国の財政制度の変革と現代福祉国家の財政。著書・論文は、「中国における公共事業の変化と地方財政」（金澤史男編著 2002「現代の公共事業—国際経験と日本」日本経済評論社）、「財政改革と中央政府の新たな役割—積極的な財政政策の実施と社会保障制度の構築」（田多英範編 2004「現代中国の社会保障制度」流通経済大学出版社）。担当授業は財政学で、2000年4月1日流通経済大学に着任。



## Keiichi Baba

累進課税による所得再分配及び行政の努力により、富の一極集中が大幅に緩和されたのである。それはとにかく、財政学という一般にはなじみの薄い学問を懇切丁寧に講釈下さっているのを聞いていて、目下世評に名高い池上彰というタレントを思い浮かべた。

NHKのアナウンサー出身の池上さんは現代史であれ世界経済であれ、なんでもかんでも物凄く判りやすく説明することで、広くお茶の間の人気を得た。「週刊子供ニュース」のころから、それはつとに名高い。その池上さんの説明に、朱先生のお話は共通するものを持っている。難しい言葉を使わず、それでいて的確に表現をされるのだ。

大学は研究の場であると同時に、教えの空間であり、最近には広く世間に対してもその門戸を

開いている。こういう先生の講義だと、財政学も楽しいなと思う人は、市民にも、いそうである。なんとかそういう場が作られたらいい。

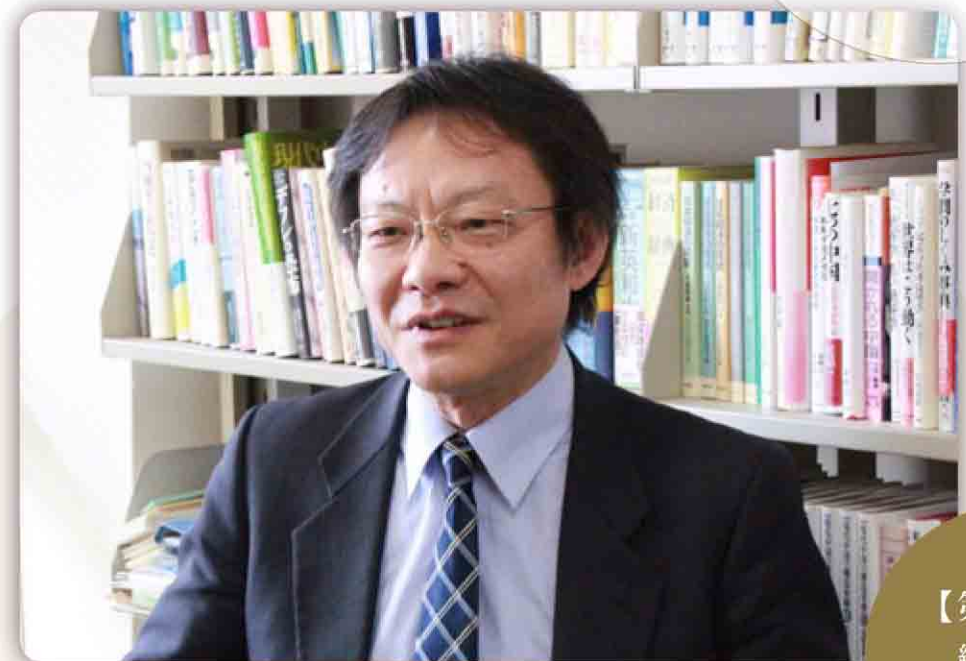
最後に昨今の本学の留学生について感想をうかがった。

「もっと日本語をきちんと学ぶこと、それがなにより大事です」

きっぱりと言われる。自らも留学生であった体験からの言葉には説得力がある。

「優秀な留学生と言われる諸君は、例外なく日本語を徹底的に習得し、読み書きの能力を最大限駆使しています。バイトなどで大事な時間を使っている学生を見ると、とても残念な気持ちになるのです」

大学に通うとは、勉学がその第一義であろう。留学生諸君、そして日本人学生も同時に、肝に命ずべし。



## Zhu Silin

【第18回】  
経済学部  
朱 思琳 准教授

「留学生はまず日本語をきちんと学ぶことが大切です」

財政学がご専門である。どのような学問であるのか、ひじょうにわかりやすくご説明いただき、学部の学生に戻ったような気分であった。

例を我が国の高度経済成長にとり、その世界的な意味での意義深さと特徴を説明してくださった。

すなわち一九五五年（昭和三〇年）から第一次石油ショックの起きる一九七三年（昭和四八年）までの一八年間の高度経済成長により、日本は一挙に世界の先進国の仲間入りをする。特筆すべきは、世界の歴史に残るような右肩上がりの経済成長を果たしながら、日本国民には貧富の差が殆んど見られず、一億層中流化とも呼ぶべき状況

が起こったことで、これはまことに稀有なことであるらしい。

朱先生の母国である中国を例に出すまでもなく、強力な経済成長を遂げると、どうしても国民の間に貧富の差が生じてしまう。富裕層と、そうでない貧困層との乖離である。

それが、日本では起こらなかった。

それはなぜか。そこで、財政学という学問による検証が行われるわけだ。

本稿は朱先生の講義録ではないので、話はここで止める。だが、せっかちな人のために言うなら、答えとしてあげられるのは、戦後の所得課税を中心とした税制、強力な財政調整制度及び有能な行政官僚の存在である。



大学は4年間ですが、それは社会人として40年以上続く長いレースのスタートだと思います。

——ジェンガさんはケニアご出身で、現在はヤクルトの陸上部でご活躍ですが、マラソンを始めたくっかけは？

陸上の選手として日本に来るきっかけとなったのは、中学校の時のケニアの陸上大会でスカウトされたことでした。ただその大会でよい記録を出すことができたのは、小学校の時に、自宅から七キロほど離れた学校まで、一時間ちよつとかけて毎日通っていたことで、足腰を自然と鍛えることができたためではないかと思っています。——初めて日本にいらっしやった時は、どのようなお気持ちでしたか？

ケニアにはモンバサというとても美しい港があるのですが、そこは世界各国からアフリカ大陸へ向かっていたのですが、最初はご家族と英語での意思の疎通も難しく、大変でした。でも、日本で生活していく上で大切なこと、たとえば挨拶や礼儀作法、日本の文化や日本人の考え方をしっかりと教えていただきました。これは本当に感謝しています。

——その後、本学に入学されるのですね。

ええ。ただ、実は大学については、当時はあまり深く考えていなかったんです。インターハイなどで記録を残すことができて、流経大で陸上をやってみないかというお話を頂いたんですが、陸上競技を続けるのと同時に、四年間、日本の大学で勉強できることが何よりも魅力でした。日本の大学で勉強できれば、その後の日本での生活にも大きな可能性が見いだせると考えたからです。

——流経大での大学生活はいかがでしたか？

私が入学した時は、陸上部が今ほど活発ではなかったのですが、スタートはとて不安でした。入学して最初の九カ月くらい、スポーツ健康科学部の坂本先生のお宅にホームステイさせていただきましたが、先生の優しいお人柄にふ

## OB/OG訪問 立川が聞く。

仙台育英高校を経て本学に入学、ユニバーシアード福岡大会男子3000m優勝などの成績を残し、卒業後は株式会社ヤクルト本社の陸上競技部で活躍しているケニア出身のダニエル・ジェンガさんにお話を伺いました。

第31期生  
(1999年3月 社会学部卒業)

ダニエル・ジェンガさん  
Daniel Njenga



〈取材〉  
立川和美 (社会学部准教授)



女関口でして、そこから、紅茶などの貿易が始まったり、イギリス人が入植してきたりと、そういう意味で、私の故郷はアフリカ大陸の歴史に大きな影響を持った国なんです。ですから、ケニアにいるときから、私は歴史がとても好きで、日本についても一九四五年度の広島、長崎への原爆投下や、その後の目覚ましい経済発展などに興味を持っていました。また、教科書には東京で高いビルが林立している写真などが載っていましたので、今までは全く異なる新しい世界に飛び出すことができるのだという期待がありました。

——来日してすぐに高校に入学されたそうですが、日本語の勉強などは大変だったのではないですか？

「大丈夫、やっていける」と安心して覚えています。当時、小さかったお嬢さんもいらして、明るく賑やかな生活でしたね。もちろん、大学での勉強もとても楽しかったです。四年間で単位をとって卒業するというのは、私にとっては大きな挑戦でしたが、先生方に本当に恵まれて、野尻先生には特にお世話になりました。日本人学生と一緒に、日本や世界の経済や社会について議論できることは大きな喜びであり、本当に素晴らしい経験でした。多くの周りの人に支えられた大学時代でしたね。

——卒業後、現在も、ヤクルトの陸上部でご活躍されているのですね。

ええ、もう一三年になります。もちろん陸上も頑張っていますが、私は普段は社員として国際部に勤務しています。スーツを着て満員電車に乗り、新橋の本社まで通っていますよ。ただ走ることばかりの生活ではなく、日本で社会人として仕事ができることは幸せなことです。

——最後に流経大生にひとことお願いします。

私は、大学の四年間は社会人としてのスタートだと考えます。競

日本語が全くできない状態で日本にやってきたものですから、成田に着いた時、多くの人と車にびっくりしてしまい、「迷子になったらどうしよう」と真剣に心配していましたね(笑)。でも、日本で生きていくためにはともかく日本語や日本文化を勉強しなくては

いけないと思いました。ケニアには、インバラやヌーといった動物が生息していますが、彼らは生まれてすぐに立ち上がります。それは「立たなければ生きていけない」からなんです。当時の私も同じように、「今ここで勉強しなければ、日本では生きていけない」と思いました。

仙台育英高校では陸上部監督の二階堂先生のお宅にホームステイ

技でもそうですが、「良いスタート」をきらないと「良いゴール」はできません。大学は四年間と大変短いですが、それは社会人として、四〇年以上続く長いレースのスタートだと思っています。今の私の社会人としての評価は、大学で頑張ってきたことが大きいと感じています。ですから、大学時代は社会人になるための基礎作りと考えてほしいと思います。現在の不安定な社会状況においては、しっかりと社会で働くための基礎作りを大学の間にしておくべきです。

それから、留学生のみなさんには「日本に来ただけで満足しないしてほしい」と思います。大学を卒業して、日本に残るにしても、国に帰るにしても、将来の自分にプラスになるものを「自分の力で」吸収してください。特に留学生は、自分から何かをしようと積極的に動くことが大切だと思います。

- 【ダニエル・ジェンガさんの近年の主な戦績】
- 2005年  
仙台国際ハーフマラソン 2位  
全日本実業団ハーフマラソン 優勝  
シカゴマラソン 3位
  - 2006年  
仙台国際ハーフマラソン 優勝  
シカゴマラソン 2位
  - 2007年  
東京マラソン 優勝  
シカゴマラソン 3位
  - 2009年  
北海道マラソン 優勝
  - 2010年  
別府大分毎日マラソン 2位



「はじめまして。よろしくお願いたします」と握手をしてお迎えくださったジェンガさんは、とても礼儀正しく、また丁寧な日本語でインタビューにお答えくださいました。真面目でストイックなスポーツマンらしく、お仕事と練習で自由な時間はあまりとれない、「忙しい方が自分に合っているんです」ということでしたが、「日本の演歌では天童よしみさんのファンです」など、日本文化にも大いに親しんでいらっしやいます。2012年は、ニューイヤーマラソン、別府大分マラソンなどを目標に練習をなさっているとのことでした。

(2011年12月取材)

【図書館】

2011年度 読書コメント大賞決定

流通経済大学図書館が毎年開催している「読書コメント大賞」の2011年度年間コメント大賞1点と年間優秀賞2点が決定しました。

「読書コメント大賞」は、学生が本を読み、感じたことなどをコメントにしてポップ広告風にまとめた作品の中から優秀なものを選ぶという企画で、2011年度は401点の応募がありました。



【年間コメント大賞】  
山崎あずさ(経営学科)  
『もの食う人びと』  
辺見庸 著(角川書店)



【年間優秀賞】  
小田恭平(経済学科)  
『星守る犬』  
村上たかし 著(双葉文庫)



【年間優秀賞】  
真中郁弥(自治行政学科)  
『新しい日本 新しい経営』稲盛和夫 著  
(TBSブリタニカ)

【出版会】

新刊のお知らせ

ガバナンスの概念は企業経営から国際政治まで、今日では社会科学の各分野で広く用いられるようになっている。本書は、法学および政治学の諸領域における現代日本の抱える具体的問題を取り上げ、ガバナンスの視点から現状分析を行うとともに、ガバナンスの向上に向けて示唆を与えようとする論考を集めている。

取り上げる問題は、日米安保体制の運用、遺伝子組み換え作物の規制、地域コミュニティの形成、インターネット上の名誉毀損、温泉資

源の保全・保護、入会林野の環境保全、気候変動とコーポレート・ガバナンス、そして司法制度改革と多岐にわたっている。

東日本大震災と福島原発の事故は、日本のガバナンスの危うさを国民ばかりか全世界に知らしめることとなった。あらゆる領域でガバナンスのあり方を見直し、その実現ないし改善に向けた努力が求められているが、本書はそうした課題に取り組むための政治学、法学からの応答として読まれるべき一冊である。



『現代日本のガバナンス』  
村田彰・植村秀樹 編  
A5判・上製・350頁  
3,465円

国語教育や日本語教育の実践では、多くの指導の工夫が行われているが、両者の連携は十分とはいえず、更なる共同研究や実践の場が待たれる状況にある。そこで本研究では、執筆者の両現場での経験を生かし、双方に有益な成果を求めるという立場から分析を行う。両領域での教育現場の実態をふまえながら、指導への応用を念頭に、言語学的枠組みを用いて説明文を分析し、その特徴や文章構造を明らかにする。その際、今日までの日本語学における文章論研究に加え、欧米におけるテキスト分析の成果を参考にし、それらの手法を積極的に取り入れることで、新

たな角度からの文章分析を進めていく。

具体的には、まず、説明文の特徴について言語学的に検討を行い、「のだ」表現などを中心にそのジャンル特性を探る。次にその文章構造の認定を行うが、ここでは、日本語の文章の実際をふまえ、新たに「中核文」という言語単位を提案する。さらに、こうした手法を言語教育の実践に取り入れる方策として、文章構造を端的に示す図式化について考察を行う。

以上のように、本研究は、言語理論に基づく指導の方法論の構築を目指す新たな試みである。



『説明文のマクロ構造把握 一 国語教育・日本語教育への指導・応用に向けて一』  
立川和美 著  
A5判・上製・264頁  
3,150円



——モンゴル出身の学生は珍しいと思いますが、どのような国ですか。  
私はウランバートル出身ですが、夏は二五度くらいで湿気がないので過ごしやすいのですが、冬はマイナス三〇度にも達するので、日本よりも厳しい自然環境だと思います。  
また、経済も日本と比べてまだまだ未発達なところが多いと思いますが、今後の爆発的な発展に期待しています。  
——日本への留学を決めたきっかけは何だったのでしょうか。  
私は、モンゴルの大学を卒業後、翻訳の仕事に一年ほど就いていましたが、その仕事先で日本人の方とお会いし、一緒に仕事をしたのがキッカケとなりました。

私に日本について教えてくださった方は、モンゴルの日本センターに勤めている方で、日本の歴史や文化、町並みなどについてたくさん話してくれました。その話を聞いていたときに、「日本に行ってみよう」「観光に関する仕事がいい」と思いついて、気がついたら仕事を辞め、日本語の勉強を始めていました。  
——実際、日本に来てみてどう感じましたか。  
驚くことが多いですが、モンゴルにないものを発見した時はうれしいです。  
たとえば、モンゴルには、「天ぷら」のように野菜をあげた料理はありません。初めて食べてから、大好きな日本食になりました。あと、モンゴルには、「夏は乳製品を。冬には肉を食べよう」という意味の諺があるくらいお肉を食べる機会が多い国ですが、日本では、いつでもおいしいお肉が食べられるのがうれしいです。

——流経大では、国際観光学科に所属していますが、勉強は楽しいですか。  
日本語の漢字が難しいので、授業中も先生の説明がわからないことが時々ありますが、質問をすれば、先生が丁寧に教えてくれるので、とてもわかりやすいですね。二年生からは、専門科目が増えるので、楽しみにしています。  
——将来は、どう考えていますか。  
私の好きな言葉に「意思あるところに道は開ける」というのがあるのですが、今後の勉強でも聞いた話だけではなく、実際にいろいろなところに「自分の足」で立って、「目で見て」いこうと思っています。  
そして、モンゴルと日本で旅行会社を設立し、両国を今以上に繋げる仕事をしていきたいと考えています。

Hello! international student!



留学生紹介

vol.17

モンゴル・ウランバートル出身のジャルガルさんは、旅行会社設立という大きな夢に向かって勉強を続けています。

取材：沖野雅広(企画広報室)



「自分の足で立って、目で見て勉強していきたい」  
社会学部国際観光学科2年 セレーテル・ジャルガルさん  
Sereeter Jargal

# 祝 関東大学ラグビーリーグ優勝

# ラグビー部 激励会



2011年、創部47年目を迎えたラグビー部が、東海大学との最終戦を制し、関東大学リーグで初優勝の栄冠を手に入れました。その栄誉をたたえ、今後のさらなる活躍を期待して激励会が開催されましたので、報告いたします。

一月二十九日、千葉県柏市内のホテルで、ラグビー部の激励会が開催されました。

小池田学長は挨拶の中で、「優勝は、選手みんなが一つになって努力した結果のたまものである」と称賛の言葉を送り、児玉理事長からは、「大学設立と同時に創部され、四十七年目になる。その歴史に、新たに輝かしい歴史が追加されたこと、次年度のさらなるステップアップを期待している」との言葉がありました。

来賓として、ご出席いただいた龍ヶ崎市中山市長からは、「ラグビー部優勝のおかげで、龍ヶ崎市の知名度が上がったことに感謝したい。また、大きな歴史を創った。来年も大きな歴史を創ってほしい」と激励の言葉をいただきました。

途中、内山監督による部員の紹介と一言あいさつ、女子ラグビー部からの激励の言葉などがあり、チアリーディング部からもエールが送られました。

また、ラグビー部恒例の年間賞（ミスターRKU※）の表彰や、二〇一二年度の新体制が発表されました。

終盤には、ラグビー部員、約一五〇名による部歌の斉唱が行われ、アットホームな雰囲気のまま、閉式となりました。

※ミスターRKUとは、年間をとおして、各分野で活躍したラグビー部の学生を表彰するもの。



試合写真は小菅由之氏にご提供いただきました。

## 2011年 関東大学ラグビーリーグ 戦績

	流通経済大学	東海大学	関東学院大学	大東文化大学	法政大学	日本大学	中央大学	拓殖大学	勝敗	勝点	順位
流通経済大学	—	○24-17	●14-31	○50-9	○29-3	○34-14	○39-14	○45-6	6勝1敗	25	1位
東海大学	●17-24	—	○25-22	○33-10	○27-10	○47-33	○46-25	○38-18	6勝1敗	25	2位
関東学院大学	○31-14	●22-25	—	●24-25	○22-15	○48-29	○27-12	○52-10	5勝2敗	22	3位
大東文化大学	●9-50	●10-33	○25-24	—	○38-17	●17-24	○23-17	●22-38	3勝4敗	16	4位
法政大学	●3-29	●10-27	●15-22	●17-38	—	○35-17	○19-10	○31-12	3勝4敗	16	5位
日本大学	●14-34	●33-47	●29-48	○24-17	●17-35	—	○46-7	○33-10	3勝4敗	16	6位
中央大学	●14-39	●25-46	●12-27	●10-19	●17-23	●7-46	—	○20-17	1勝6敗	10	7位
拓殖大学	●6-45	●18-38	●10-52	○38-22	●12-31	●10-33	●17-20	—	1勝6敗	10	8位

※1位、2位及び7位、8位は当該対戦による。4位、5位、6位は、当該対戦間の得失点差、大東+14、法政-3、日本-11による

## 選手たちの卒業後の進路

小野寺優太(社会学部 国際観光学科)	日本電気(株)
長谷川真人(法学部 ビジネス法学科)	(株)豊田自動織機
萩澤正太(法学部 自治行政学科)	サンントリーホールディングス(株)
今村光希(スポーツ健康科学部 スポーツ健康科学科)	九州電力(株)
小澤大(スポーツ健康科学部 スポーツ健康科学科)	トヨタ自動車(株)
鹿田翔平(スポーツ健康科学部 スポーツ健康科学科)	サムスン電子/韓国法人
Vakauta Isileli(スポーツ健康科学部 スポーツ健康科学科)	日本電気(株)



女子ラグビー日本代表  
井上愛美選手



鹿田翔平キャプテン



児玉大輔新キャプテン



小池田学長



内山監督



龍ヶ崎市長

## 流通経済大学ラグビー部 激励会

- |                                    |                              |
|------------------------------------|------------------------------|
| 1 小池田学長 挨拶                         | 9 部員紹介・部員コメント                |
| 2 児玉理事長 挨拶                         | 10 女子ラグビー部 紹介・コメント           |
| 3 来賓・龍ヶ崎市中山市長 挨拶                   | 11 DVD上映                     |
| 4 ラグビー部-内山監督 挨拶                    | 12 ラグビー部 各種表彰                |
| 5 本学1期卒業・瀬川様 挨拶・乾杯                 | 13 チアリーディング部 エール             |
| 6 付属高校ラグビー部-松井監督 激励の言葉             | 14 新体制紹介                     |
| 7 本学33期卒業/NECグリーンロケッツ<br>横山様 激励の言葉 | (新キャプテン、バイスカプテン、寮長、主務発表コメント) |
| 8 ラグビー部スタッフ紹介                      | 15 全員で部歌                     |
|                                    | 16 ラグビー部-吉村部長 閉式の挨拶          |



龍ヶ崎市中山市長



児玉理事長

全学

4月  
1日 ●入学式  
2日～7日 ●RKU WEEK  
9日 ●春学期授業開始

6月  
16・17日 ●青春祭(新松戸キャンパス)  
26日～7月2日 ●海浜実習  
※予定 (スポーツ健康科学部のみ)

7月  
14日 ●春学期授業終了  
17日～30日 ●春学期定期試験

就職関連

就職ガイダンス

4月 ●就職への心構え  
5月 ●自己分析対策  
6月 ●ゼミ別・就職活動の諸手続き

[編集後記]

●今年度の大学の入学式は4月1日(日)に挙行され、翌2日(月)から7日(土)まで新入生を対象にした2012年度RKU WEEKを実施しました。RKU WEEKの目的は以下のとおりで、2007年度新入生を対象に実施した後、毎年入学式を終えた直後に1週間実施しています。

1. 大学教育へ円滑に移行するための導入教育を実施する。
  2. RKUへの理解を深め、本学への帰属意識を涵養する。
  3. 学習意欲を喚起し、通学習慣を確立し、仲間作りの場を提供する。
  4. 基礎学力を客観的に測定し、その後の指導に役立てる。
- 今年度の強化テーマは、次の3項目でした。
1. 学部・学科ガイダンスの徹底  
\*入学時点での徹底したガイダンスにより、新入生の不安を一掃し、学習意欲を高め、円滑な大学生活のスタートが切れるようにする。
  2. キャリア教育の充実(就業力の育成)  
\*本学では以前からキャリア教育重視の対策がとられていますが、さらに成果を上げていくために、入学時点でキャリアについての意識向上を図る。
  3. 基礎学力の向上(修学基礎講座の開設)  
\*大学生活を始めるにあたって、学習面での不安や疑問を抱えている新入生を対象に「修学基礎講座」を開設し、希望者に「ちょっと苦手なもの」、「理解が不足しているもの」などについて、学び直しをする絶好の機会をつくる。

●今年度の授業はすでに始まっており、7月14日(土)まで春学期の授業期間で、その直後17日(火)から30日(月)まで春学期の定期試験が行われます。  
新入生はもちろんのこと学生全員が一生懸命勉学に励み、実り豊かな学生生活を送るよう心から願っている次第です。  
(編集子)

交換留学生修了式

4

2月7日、交換留学生の修了式が龍ヶ崎キャンパスで開催されました。東北財経大学の王 琦さん、曲 柳凝さん。又松大学校の郭 柄焜さん、海南大学の朱 方明さんが出席し、小池田学長より修了証書を受け取りました。

小池田学長からは、修了証書と「国に帰っても頑張ってください」と激励の言葉が。修了証書を受け取った学生たちからは、「流通経済大学で学べて良かった」「日本での経験を母国に戻って活かします」とそれぞれ感想が述べられました。



スポーツ方法実習(スキー・スノーボード)

5

2月10日～13日の期間、3泊4日でスポーツ方法実習が長野県の志賀高原にて行われました。スキーやスノーボードの実習のほか、ケガをした際の応急処置なども学び、技術と知識の向上に努めていました。



業界・企業説明会

6

1月下旬、新4年生を対象とした就職説明会が開催され、延べ約140社の人事ご担当者の方々が来学されました。中には本学OBが担当者として来学した企業もあり、後輩たちにこれからの就活について、「どう活動するか」、またそのためには大学生活を「どう過ごすのか」、説明している姿が印象的でした。



2011年度卒業式・〇〇会

1



3月20日、龍ヶ崎キャンパスのメインアリーナにおいて2011年度卒業証書授与式および学位記授与式が行われ、1,068人の学生が新たな環境へと巣立っていきました。

卒業式終了後は、恒例となっている学生会主催の卒業生を送る会「〇〇会(マルマル会)」がサブアリーナにて開催され、卒業生たちは学生生活最後の後輩たちとの交流を楽しんでいました。



卒業論文発表会

3

社会学部、流通情報学部の卒業論文発表会が、両キャンパスで行われました。4年間の集大成の発表のため、緊張した面持ちで発表に臨んでいました。発表後は、「発表の機会を経験し、反省するところは多々あったが、今後社会人として働く際に活かしたい! 今後につながる体験だった」という感想を寄せてくれました。



ヨーロッパツアー

2

第36回ヨーロッパツアーが2月10日から25日にかけて15泊16日の日程で開催されました。このツアーは学生から希望者を募って本学職員とともにイタリア、フランス、スペインを巡るもので、今回は17名の学生が参加し、貴重な体験と思い出を胸に無事帰国しました。



2012 OPEN CAMPUS!

# 2012年度 オープンキャンパス開催!



今年も間もなくオープンキャンパスがスタートします。  
流通経済大学のキャンパスをその目で見て、空気を感じて、  
先輩や教職員の話聞くのが、本学を知っていただく一番の近道です。  
充実したメニューを用意してお待ちしていますので、  
お気軽にご来場ください。※事前の予約は不要です。



開催日程  
Shimmatsudo

## 新松戸 キャンパス

千葉県松戸市新松戸3-2-1

6/16<sup>±</sup> 青春祭と同時開催

7/28<sup>±</sup>

8/5<sup>㊤</sup>・25<sup>±</sup>

9/8<sup>±</sup>



Ryugasaki

## 龍ヶ崎 キャンパス

茨城県龍ヶ崎市平畑120

6/9<sup>±</sup>

7/21<sup>±</sup>

8/4<sup>±</sup>・18<sup>±</sup>

9/15<sup>±</sup>



開催時間 & メニュー

〈時間〉  
**10:30-15:00**

〈メニュー〉

- 先輩学生によるキャンパスツアー
- 大学紹介(学部学科紹介)
- 自分に合った学部学科発見コーナー
- 体験授業 など

★開催日によって、各学部学科のスペシャルイベントも企画しています。



お問い合わせ

QRコード▶▶

流通経済大学  
入試センター

0120-297-141

ees@rku.ac.jp

〈受験生向けスペシャルサイトへGO!〉

http://www.rku.ac.jp/go

http://www.rku.ac.jp/go/m



**RKU** RYUTSU KEIZAI UNIVERSITY

流通経済大学広報誌 **RKU Today vol.19** 2012年4月発行  
編集・発行/学校法人日通学園 流通経済大学企画広報室  
茨城県龍ヶ崎市平畑120 〒301-8555 TEL: 0297-64-0001 (代表)

